

春2期 科目

1. 国際ビジネス事情Ⅱ (担当 濱田剛一)

2026 春学期第2^{クォーター}Q (6月～8月)開講
国際教養学科3年講義・対面授業

授業の目的と概要

本講義は②⑤をメインテーマとして、以下のグローバル人材として必要な能力を育成することを目的とします。

- ①Innovator「イノベーターの育成」常に新しい価値を提案し行動に移すことができる人材！
- ②Inclusive「インクルーシブな発想」他者との違いを認め、多様性に気づき、共生できる人材！
- ③Autonomous「自律した学び」自ら学び続けるスキルを磨いて変化の激しい時代に生き残れる人材！
- ④Locality「地域との接続」地域を教材にして深い学びを実現できる人材！
- ⑤Sustainability「サステナブルな思考」自然との繋がりを重視し、共生社会を前提とした発想力を有する人材！

具体的には国際ビジネスを展開する企業が直面するリスクの面から企業の経営戦略を理解する力を身につけます。さらに国際情勢について分析・理解し、企業の国際ビジネス展開の提案の策定を経験します。”

到達目標

企業の国際戦略についてリスクを前提に検討し、課題を発見し説明することが出来るようにする。さらに新たなビジネスフィールドでの国際戦略を検討するための応用力とコミュニケーション能力を向上させることを目標にします。

授業の進め方

基本的に授業時間の30%を講義形式で行い、残りを「ディスカッション」「ディベート」や「グループワーク」を行い「プレゼンテーション」に結びつける能動的な学修を目指します。また毎回授業では書き込み資料を配布し、記入するとともに、講義内容の反復振り返りを行っていきます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題等については授業内で解説、講評しますが、WebClassも活用することもあります。また質問などについてはオフィスアワーでのフォローアップ、メール予約により研究室への訪問を受け入れます。また個別の質問に対してメール等でのフィードバックも行います。

■授業計画表

- 1.ガイダンス
- 2.ロシアと中国 AI
- 3.インフレ イラン、エネルギー危機
- 4.「企業選定」中間プレゼンテーション準備
- 5.中間プレゼンテーション準備
- 6.中間プレゼンテーション準備
- 7.「企業選定」中間プレゼンテーション ディスカッション
- 8.イノベーション アメリカ
- 9.Z世代 水問題
- 10.「企業選定」期末プレゼンテーション準備
- 11.期末プレゼンテーション準備
- 12.期末プレゼンテーション準備
- 13.期末プレゼンテーション ディスカッション

事前・事後学修

選定企業の調査研究結果について毎回発表できるようにすると共にグループディスカッションの準備をしてください。毎回の演習においては問題を提示し指名により発言を求めます。必ず前回の演習内容を振り返り、重要事項をノートに整理してください。発表資料などは役割分担も含めて責任をもって作成する必要があります。

また、ニュース・新聞などで最近の社会や国際情勢さらには企業の動き・情報を入手し、授業の中で質問及び自分の意見として発表できるように心がけてください。

予習、復習の時間は併せて5時間を目安とします。

成績評価基準と方法

「到達目標」に明示している内容を授業内提出物・発表、中間振り返り、期末振り返りにおける評価基準とする。

授業内提出物・発表 40%

中間振り返り 30%

期末振り返り 30%

テキスト: 使用しません。資料を適宜配布します。

参考文献: 必要に応じて指示します。

実務経験のある教員の経歴と授業内容

本講義は銀行において、経営の実務経験および大企業・中小企業との融資・証券・保険・外国為替業務などの実務経験と海外ビジネス経験のある教員がビジネス現場に即した実践的な講義を実施します。

備考

授業中に課題の内容について随時指名して発言を求めますので、しっかりと予習・復習したうえで授業に参加してください。

フィールドワークに関する実費は自己負担となる場合があります。

春2期 科目

2. 観光地理 (担当 齋藤修)

2026 春学期第2^{クォーター}Q (6月~8月)開講
観光ビジネス学科1年講義・対面授業

授業の目的と概要

本授業は、観光地理学をベースにし、観光資源によって分類した空間(「地域」)の形成と現状、特徴を紹介し、地理学的な視点で観光空間(「地域」)を認識してもらうことを目的としている。
各授業において、各観光地域を地理学的な「空間」「地域」として把握し、観光対象や観光施設がどのようにつくられ、形成されたのかを認識してもらう。そして、観光学を学ぶ上での基礎的知識を理解してもらう。さらに、それを使った技能の1つを実体験してもらう。”

到達目標

- ①各観光地域を1つの「空間」として認識しながら、その中における現状と課題を総合的にとらえることができる。
- ②観光地域の多様性と個々に内在する課題を理解し、「地域振興」を意識した課題の解決法を自分なりに表現することができる。
- ③観光施設の立地調査から札幌市中心部の空間としての特徴を認識できる。”

授業の進め方

さまざまな地図、画像、統計資料などを用いた講義形式を中心に行われる。そして、それぞれのテーマに応じた、地図読解や資料解析などによる毎時の課題もある。具体的には各観光地域の特徴や問題点の把握を「立地」という観点から行なう。

また、簡単な札幌市内での観光施設の立地調査(フィールドワーク)も実施する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題については、次時で毎時解説し、フィードバックする。

フィールドワーク後に実施するまとめについては、作図の際に解説の形でフィードバックする。

授業計画表

- 1.1 ガイダンス 2 地理学的視点 3 ツーリズムと地理学 4 読図の方法
2. 温泉観光地域(形成・現状・課題、事例:国内と海外)
3. 自然観光地域(形成・現状・課題、事例:国内と海外) 1・山岳
4. 自然観光地域(形成・現状・課題、事例:国内と海外) 2・海浜
5. 農山村観光地域(形成・現状・課題、事例:国内と海外)
6. 歴史観光地域(形成・現状・課題、事例:国内と海外)
7. 文化観光地域(形成・現状・課題、事例:国内と海外)
8. 都市観光地域(形成・現状・課題、事例:国内と海外) 1
9. 都市観光地域(形成・現状・課題、事例:国内と海外) 2
10. 札幌市内観光施設の立地調査(フィールドワーク1)
* 札幌駅前から中島公園までのエリアにおける特徴を調査
11. 札幌市内観光施設の立地調査(フィールドワーク2)
* 札幌駅前から中島公園までのエリアにおける特徴を調査
- 12.1, フィールドワークのまとめ 2, 観光資源と立地
- 13.1, 授業のまとめ 2, 最終テスト

備考

欠席時の資料等は、各自で確認すること。テストがあるので必要となる。(持ち込み型のテストなので暗記を求めているわけではない。)

地理的な概念をきちんと理解すること。

中学や高校で利用した地図帳があれば便利なので持参しながら受けた方がよい。(慣れているのであればグーグルマップでも良い)

フィールドワークは7月の土曜日に予定している。(フィールドワークでの交通費は自己負担)

事前・事後学修

予習として、前時の授業内容の意味を確認し、毎時の課題に活かす。

(欠席した場合は、進んで研究室まで来て、確認すること)

日頃から地図帳をみて、世界の諸地域、諸国家の位置を確認しておく。位置確認は事後学習として当然行うこと。

成績評価基準と方法

- ①毎時の課題とレディネスアンケート:空間認識と現状課題の把握 30%(毎時の平均点)
- ②最終テスト:課題の解決法の表現 50%(レジュメ等紙媒体の持ち込み可)
- ③フィールドワークの状況とまとめ:空間特徴の認識 20%

テキスト: 特になし(毎時のレジュメを配布)

参考文献

- ・山村順次『観光地理学 観光地域の形成と課題』同文館出版
- ・寺阪昭信『大学テキスト 観光地理学 世界と日本の都市と観光』古今書店

春 2 期 科目

3. 観光政策行政 (担当 新海茜)

2026 春学期第 2 ^{クォーター} Q (6 月～8 月)開講

観光ビジネス学科 2 年講義・対面授業

授業の目的と概要

観光政策は、地域や企業単位のマクロなレベルでも、個人単位のミクロなレベルでも多方面に影響を及ぼす。日本では明治維新による開国以降、様々な観光政策が紆余曲折に実施されてきた。観光政策の転換には、時代特有の外交問題や経済問題が背景にある。これらの社会的背景を把握することは、日本の観光政策の特徴や課題、さらには今後の動向を理解するために極めて重要である。本授業では、日本の観光政策の歴史的展開を体系的に理解した上で、現代の観光政策が抱える課題とその克服方法を考察する。具体的事例として北海道ニセコエリアの事例を取り上げることで、なぜニセコエリアがインバウンド観光振興に成功できたのか、日本全体の観光政策の動向と関連づけながら理解する。

到達目標

- 日本の観光政策の歴史的展開について、社会的背景を踏まえながら理解する。
- 日本の観光政策の構造的特徴を具体的事例とともに理解する。
- 現代の日本の観光政策が抱える課題と克服方法を考察する。”

授業の進め方:

本授業は、講義、ディスカッション、プレゼン発表&ワークシート、期末筆記試験によって構成される。
講義:観光政策に関する学術的知識について、教員が行う講義を受講する。
ディスカッション&ワークシート:各回のテーマに関する問いを全員で討議し、その内容をコメントシートに記入する。
プレゼン発表:特定の地域における観光政策の具体的事例を調査し、受講生全員の前でプレゼン発表する。
期末筆記試験:講義で学んだ内容が正確に把握できているかを問う筆記試験を受験する。”

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ディスカッションおよびプレゼンテーションについては、授業内で教員が優れた点と改善点を講評する。ディスカッションで特に有意義な意見が出た場合や、優れたプレゼンテーションがあった場合には、次回授業の冒頭で全体に向けて紹介し、講評を行う。

授業計画表

- 1.オリエンテーション:観光政策って?
- 2.日本の観光政策史①
- 3.日本の観光政策史②
- 4.北海道の観光政策史
- 5.ニセコエリアの観光政策史①
- 6.ニセコエリアの観光政策史②
- 7.プレゼン発表①
- 8.プレゼン発表②
- 9.観光政策の具体的事例①:オーバーツーリズム対策、世界遺産・日本遺産、観光まちづくり等
- 10.観光政策の具体的事例②:オーバーツーリズム対策、世界遺産・日本遺産、観光まちづくり等
- 11.観光政策の具体的事例③:オーバーツーリズム対策、世界遺産・日本遺産、観光まちづくり等
- 12.観光政策の具体的事例④:オーバーツーリズム対策、世界遺産・日本遺産、観光まちづくり等
- 13.期末筆記試験/まとめと解説

事前・事後学修

予習として、あらかじめ教員が Web class 上にアップした資料(新聞の切り抜き等)を熟読しておくこと(15~90 分)。
また、適宜授業で学んだ事項を復習すること(15~90 分)。
プレゼン発表当日までに、特定の地域における観光政策の具体的事例を調査し、発表の準備をしてくること。

成績評価基準と方法

- 授業への姿勢(出席率、積極性、授業態度等):20%
※発言内容の正否を問わず、積極的に発言できる。
- ディスカッション&コメントシート:30%
※自らの考えを論理的に説明できる。
- プレゼン発表:30%
※教員が事前に呈示した分析指標に基づいて具体的事例を分析できる。
- 期末筆記試験:20%
※講義で教えた学術的知見や具体的事例を簡潔かつ的確に説明できる。”

テキスト:
特になし。
適宜授業資料を web class 上に掲示する。

春2期 科目

4. 芸術論 I [英語による授業](英語) (担当 藤垣エミリア)

2026 春学期第2 ^{クォーター} Q (6月~8月)開講

全学共通教育科目 3年講義

授業の目的と概要

The aim of this course [芸術論(英語による授業)] is to introduce you to the history and development of western visual art ranging from Greek art (500 BC) to Baroque in the Netherlands (1600 AD~), and at the same time to give you an opportunity to enhance your English skills. Students, who want to advance in English and learn about art are welcome to this course. The contents are in great part the same as in the 芸術論 I, but the lectures are given in English. The new vocabulary you are going to learn will include terms specific to the subject of art.

到達目標

You will learn how to look at visual art, increase your knowledge, and appreciate reproductions of significant works of art. Our Goals are:

- 1.Studying range of art and architectural works within historical and cultural contexts.
- 2.Becoming familiar with several significant works of art.
- 3.Learning fundamentals of perspective drawing.
- 4.Exchanging views, opinions, and developing verbal skills, such as presenting and defending an opinion.

授業の進め方

- 1.Instructor: Lecture style, PowerPoint presentations
- 2.Students: Take notes, write comments, take active participation during the lecture by asking and answering questions, taking short tests online, participate in group activities
- 3.Assignments: researching subjects related to lectures and writing short essays.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

The instructor will evaluate the short test answers and group discussions in class. Students can get a feedback/evaluation for the short tests on the WebClass.

授業計画表

- 1.Orientation: a demo lecture on pop-art, hyperrealism and trends in visual arts
- 2.Guidance on procedure and evaluation / The second lecture on realism and hyperrealism
- 3.Greek art of the Golden Age ①/ its impact on Western art & Olympic Games
- 4.Greek art of the Golden Age ②/western concept of Absolute Beauty and Proportions in art / Parthenon outside - metopes and myt
- 5.Greek art of the Golden Age③ /architectural orders/Parthenon/statue of Atena and Elgin marbles dispute
- 6.Art of the Roman Republic & Empire. Concepts of Utility/Art & architecture
- 7.Middle Ages ① The Carolingian Renaissance and creation of the first European countries
- 8.Middle Ages ② Romanesque architecture, manuscripts and monastery culture
- 9.Middle Ages ③ Gothic architecture, cathedrals and chivalry
- 10.Renaissance ① Scientific linear perspective development in Renaissance Italy
- 11.Renaissance ②man/ impact of science in the field of art /"Vitruvian man"
- 12.Renaissance ③ Leonardo da Vinci/ use of perspective in "The Last Super" and "Mona Lisa"
- 13.Baroque still life / Vanitas, Vermeer and the social background of the 17 century's Netherlands

事前・事後学修

The following is suggested: Reading appropriate books on art, watching educational programs and reviewing notes taken during lectures.

Students not familiar with the subject should review notes on daily basis. About 2 hours of reviewing the subject (before and after the lecture) is strongly advised. A dictionary may help you with the new vocabulary.

成績評価基準と方法

Short tests: 40%

Group activity: 40%

Assignments: 20%

There are optional points to earn during the lecture for active students.

テキスト:

There is no textbook, but the text and/or references will be provided by the instructor in form of handouts on WebClass. The PowerPoint presentations of each lecture will be available for reviewing on WebClass system.

参考文献:

Art & Civilization, Edward Lucie-Smith, 1992, ISBN1-85669-027-X, published by Laurence King.
Other History & Art books relevant to the period compatible with the lectures.

実務経験のある教員の経歴と授業内容

Upon graduation from the Copernic University (Torun, Poland, MA in Art Education), the instructor held two jobs: in clothing pattern design in a factory in Poland, and a packaging design in a brand confectionary in Japan. She is also exhibiting her own art at several individual exhibitions in Japan and in Poland.